

タイトル	表紙・目次・論文扉・奥付
著者	
引用	年報新入文学(11)
発行日	2014-12-25

# 新 人 文 学

Annual Bulletin  
of the  
New Humanities

Vol. 11



【巻頭言】

## 新人文学についての愚考

安酸敏眞

【論文】

## 重源伝承の諸相

追塩千尋

## 鏡の中の師と敵 — 黒澤明と分身の主題 —

大石和久

## マクルーハンによるヤコブソン理解のドグマ

— 通信モデルとの連続性と断絶

柴田 崇

## 親王将軍期鎌倉幕府祭祀・祈禱に関する考察

竹ヶ原康弘

## 〈記録写真〉の美学 — 瀧口修造の場合

秋元裕子

## 近現代アイヌ民族における、 生活文化の中での伝承に対する伝承者の意識の変遷

～特に植物利用に関する伝承について、時代や生活環境が伝承者の意識に与えたもの～

貝澤太一

◆成果と展望 [書評]

船岡 誠 『道元〈ミネルヴァ日本評伝選〉』 追塩千尋

【彙報】

平成二十五年 度 大学院文学研究科 学位論文題目一覧

文学研究科教育・研究発表活動覧 ●編集後記



新人文文学についての愚考 安酸敏眞……………002

重源伝承の諸相 追塩千尋……………008

鏡の中の師と敵——黒澤明と分身の主題—— 大石和久……………038

マルクーハンによるヤコブソン理解のドグマ——通信モデルとの連続性と断絶—— 柴田 崇……………092

親王将軍期鎌倉幕府祭祀・祈禱に関する考察 竹ヶ原康弘……………148

〈記録写真〉の美学——瀧口修造の場合—— 秋元裕子……………176

近現代アイヌ民族における、

生活文化の中での伝承に対する伝承者の意識の変遷 貝澤太一……………204

（特に植物利用に関する伝承について、時代や生活環境が伝承者の意識に与えたもの）

◆成果と展望〔書評〕

船岡誠『道元〈ミネルヴァ日本評伝選〉』

追塩千尋……………270

〔彙報〕

平成二十五年度 大学院文学研究科 学位論文題目一覧……………276

文学研究科教育・研究発表活動覧……………280

編集後記……………281

年報  
新  
人文文学

【第十二号】  
二〇一四年十二月発行  
目次

Annual Bulletin  
of the  
New Humanities

Vol. 11

# 論文

重源伝承の諸相 追塩千尋

鏡の中の師と敵―黒澤明と分身の主題― 大石和久

マクルーハンによるヤコブソン理解のドグマ―通信モデルとの連続性と断絶 柴田 崇

親王将軍期鎌倉幕府祭祀・祈禱に関する考察 竹ヶ原康弘

〈記録写真〉の美学―瀧口修造の場合 秋元裕子

近現代アイヌ民族における、

生活文化の中での伝承に対する伝承者の意識の変遷

〔特に植物利用に関する伝承について、時代や生活環境が伝承者の意識に与えたもの〕

貝澤太一



### ◆表紙の「ふくろう」について

表紙に描かれている「ふくろう」には、二重の意味が込められています。ひとつは古代アテネの「ミネルヴァのふくろう」に由来する、「知恵なし学問」の象徴という意味です。哲学者ヘーゲルが、「ミネルヴァのふくろうは、日の暮れ始めた夕暮れとともに、はじめてその飛翔を始める」と述べたことは、つとに有名です。

もう一つの意味は、北海道に生息する天然記念物「シマフクロウ」に由来しています。シマフクロウは、北海道のなかでも手つかずの自然が残っている場所にしか生息しませんが、その表情には思慮深い哲人を思わせる威厳があります。古来アイヌの人たちは、この鳥をコタンコロカムイ（村の守護神）と呼んで神聖視してきました。

本誌は、この「ミネルヴァのふくろう」と「シマフクロウ」にあやかっ、北の大地から新しき学問の地平をきり拓くべく、大いなる飛翔の場たらんとするものです。

## 年報 新人文学〔第十一号〕 Annual Bulletin of the New Humanities

発行日——平成二十六年（二〇一四）年十二月二十五日 発行

編集者——北海学園大学大学院文学研究科『年報 新人文学』編集委員会

北海学園大学大学院文学研究科内

〒〇六二―八六〇五 北海道札幌市豊平区旭町四丁目一 番四〇号

電話（〇二）八四一―二六二〔代表〕 FAX（〇二）八二四―七七二九

編集委員——大谷通順＋田中洋也

発行者——須田一弘

発行所——北海学園大学大学院文学研究科 札幌市豊平区旭町四丁目一 番四〇号 電話（〇二）八四一―二六二〔代表〕